



## テュートリアル課題 体が熱い

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2014
号	S7
発行年	2014-05-21
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00032354">http://hdl.handle.net/10470/00032354</a>

2014年度 Segment. 7

課 題 No.4

課題名：体が熱い

課題作成者：小児科学

今井 薫



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

恵子さん（28歳）は、育児休暇が終わり、仕事に復帰するため、一人娘の葵ちゃんを生後4ヶ月から保育園に入れ、毎日、両親が送迎していました。葵ちゃんは、正常分娩で出生して、2ヶ月であやし笑い、追視、「アーウー」と喃語も発声し、3ヶ月で首がすわり、5ヶ月で寝返りも可能になり、体重は7100gで、今まで、病気もせずに成長していました。

生後6ヶ月のある朝、母が葵ちゃんを起こそうと抱き上げたところ、体が熱いことに気づきました。体温を測定したら、38.8度でした。恵子さんは心配になりました。

シート2

恵子さんは会社を急遽休み、小児科医院に葵ちゃんを連れて行き、診察を受けました。体温は38.7度、全身状態は良好で、咳嗽、鼻汁、嘔吐、下痢 発疹などの症状はなく、保育園で流行している病気もありませんでした。

全身状態は良好であり、自宅での看病、脱水症予防のための水分補給と体の冷却などを指導され、解熱剤の坐薬を処方されました。

## シート3

生まれて初めての発熱であり、母は非常に心配になり、祖母に家に来てもらい、一緒に看病することにしました。水分摂取や尿量は保たれ、意識も清明で全身状態は 比較的良好でしたが、39度前後の発熱は持続していました。嘔吐はありませんが、軽度の下痢をまれに認めました。

発熱3日目になる明日は小児科医院に再度受診しようと思っていました。しかし、発熱は持続していて、その早朝、突然に眼球上転して、全身けいれんを起こしました。母は救急車を要請して、母と一緒に葵ちゃんは救急病院に搬送されました。

シート4

救急車の中でけいれんは10分間で止まりましたが、意識はもどらない状態でした。救急外来での診察時、体温 39.5度 刺激すると開眼する状態でした。いろいろな検査と治療が必要であると説明を受けて、入院することになりました。

シート5

入院してからは、けいれんの再発はありませんでしたが、入院当日の夕方に体温は急に下がり、顔や体に発疹が出現しました。その後、発熱は認めませんでした。しかし、笑み、啼泣、追視はなく意識の障害が持続し、寝返りはできないままでした。  
脳波検査を直ちに行うことになりました。

シート6

主治医から、「脳が少しむくんでいて、脳機能が障害されています。突発性発疹症による急性脳症が考えられます。」と説明を受けました。

母は、後遺症なく治るのか、心配になりました。



シート7

入院して1週間で、意識障害は改善していき、後遺症なく以前の精神運動発達に回復しました。退院後は、しばらく自宅静養して保育園に再び通い始めて、母も仕事に復帰9しました。